

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	農畜産物ブランド化推進事業			事業番号	23-104
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	石田 康弘	農業振興課	天野 勝彦	

計 画 (P l a n)						
総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち		
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり		
		施策展開の方向	10	地域の産業が盛んなまちをつくる		
		施策	23	地域とつながる都市農業・森林づくりの推進		
予算事業名	農産物ブランド化推進事業費					
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務		(選択してください)→		法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前 ～		終了年度		
関連法令等	地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律(六次産業化法)					
国・県の計画等	①かながわ農業活性化指針②神奈川県果樹農業振興計画			計画期間	②平成24年度～令和7年度	
関連個別計画				計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	農畜産物に関しては、地産地消で安全安心な生産者の顔が見えるなど、高付加価値を付けた農畜産物の消費拡大が起こっており、地元の直売所などでの販売物が売れています。農業者から本市の農畜産物を販売する戦略の充実が求められています。更に酪農業が県内有数でありそれらもアピールしていく場の提供などが求められています。					
目 的 (何をどうしたいのか)	地域の農業振興を図りながら農商工連携した6次産業化や新たな特産品開発に向けた調査・研究を進めるとともに、農畜産物(ブランド品)の販路拡大に向けた情報発信を行います。					
主な対象 (誰・何を対象に)	市内の農業者等及び販売事業者					
事業内容 (手段、手法など)	・本市農畜産物の認知度向上を図るため、様々な広報媒体を活用して特産品のPR活動を実施します。 ・農畜産物の付加価値向上を図るため、商品パッケージの改良支援に取り組みます。					
事業行程	項目		年度			
			令和3年度		令和4年度	
	販路拡大等の調査・支援		物販イベントの実施		物販イベントの実施	
	商品パッケージ改良支援		実施		実施	
目 標	【指標名】		年度			
	【現状値】		令和3年度		令和4年度	
	商品パッケージ改良支援		－		2品目 2品目	



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	新型コロナウイルス感染症の影響によって活動に制約される場合がありますが、「日本遺産のまち伊勢原うまいものセレクト」のPRにおいては、新たな認定品の開発に取り組みながら、可能な範囲で物販イベントを実施するなど販売促進に努めていきます。また、昨年度に引き続き、農畜産物及び加工品のパッケージデザイン改良等のための支援を実施していきます。			
実施方法 〔選択・記入〕	☐ すべて直接実施 ☒ 左記以外			
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	
	☒ 補助金		補助先	伊勢原市地域特産物研究会
	☒ その他		具体的内容	伊勢原市地域特産物研究会が「地域特産物研究会交付金」を受けPR等を実施
実施結果	項目	年度		
		令和3年度	令和4年度	
	販路拡大等の調査・支援	実施		
	商品パッケージ改良支援	実施		
実施した取組の内容	物販イベントについては、コロナ禍の影響により企業や茅野市交流事業は実施できませんでしたが、市内で行われたスポーツ競技の全国大会にて実施することができました。また、新たな商品の認定に取り組むとともに、認定農畜産物の付加価値向上を図るため、商品パッケージの改良支援を実施しました。			
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度	
			令和3年度	令和4年度
	商品パッケージ改良支援	—	2品目	

コスト	年度	令和3年度 実績				令和4年度 実績			
	事業費合計 (a)		224	千円				千円	
	内訳	国県支出金 ①	0	千円				千円	
		地方債 ②	0	千円				千円	
		その他特財 ③	0	千円				千円	
		一般財源 (a)-①-②-③	224	千円			0	千円	
	国県支出金の内容								
	その他特財の内容	受益者負担	☐ 有 ☐ 無		前回の改定時期				
		その他							
	人件費	正規職員	0.05	人	409	千円		人	千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人	千円
		人件費合計 (b)	0.05	人	409	千円		人	千円
	トータルコスト (a)+(b)		633	千円			0	千円	
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位		単位	
			対象数	101,381		人			
総事業費／対象数		6		円			円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☐ 計画どおり (A) ☒ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	登録ブランドの付加価値向上と販売促進のための商品パッケージ改良については、指標目標としていた2品目に支援することができ、物販イベントについては、市内で行われたスポーツ競技の全国大会にて実施することができました。また、新たな商品開発や選定についても、観光協会や商工観光課と連携して取り組みました。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☐ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☒ 一律に比較できない事業	—	他都市の事内容等	農畜産物のブランド化については、近隣自治体において同様な取り組みが行われ、地域における諸条件が異なるため、他市との比較は困難であると考えます。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	農畜産物のブランド化を進めることで、農業者の所得向上と農業の効率的な生産性を図るため、有効な取り組みであると考えます。
効率性 〔選択・記入〕	☐ 効率的に実施されている (A) ☒ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	B	左記判断理由	事業者はもとより、観光協会や商工観光課と連携し、効率的に取り組んでいますが、ブランド登録のメリットを向上させるなどにより、事業者の更なる主体的な参画等を醸成していくことが求められます。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しの上継続	事業推進上の課題	今後もコロナ禍の状況が不透明であることから、物販イベントの実施に係る調整や判断が難しくなっています。また、ブランド登録のメリットを向上させるなどにより、事業者の更なる主体的な参画等を醸成していくことが求められます。
令和4年度 of 取組方針		今後もコロナ禍の状況は不透明ですが、企業や姉妹都市と連携・協力しながら、可能な範囲で工夫しながら物販イベントの実施を模索します。また、農畜産物及び加工品のパッケージデザイン改良等のための支援に継続して取り組みます。		
所管部長による総評		「日本遺産のまち伊勢原うまいものセレクト」については、事業者や生産者の安定した収入を確保するとともに、本市の知名度や魅力の向上させるために重要な取組となります。今後の事業運営についても、ウイズコロナの中で難しい舵取りが求められますが、事業者・観光協会・経済環境部が緊密に連携・協力しながら、新たな商品開発やPR活動の歩みを止めることなく、常にチャレンジしていく必要があります。		